



親子で参加する
特別サロン開催!

2月の環境サロン

環境サロンは、身近な環境問題などをテーマに、みんなで気軽に学びあえる場、語りあえる場です。ご常連の方も、初めての方も、一度だけの参加も大歓迎です。ぜひおいでください!



第17回 環境サロン

「親子協働イベント ～ときわ動物園内設置物づくり」

と き : 2月11日 (木/祝)
第一部 9:45~12:00 (受付 9:30)
第二部 13:15~15:30 (受付 13:00)
と ころ : ときわの森ホール
(ときわ公園内遊園地エリア)
指 導 : 川辺真也さん(株林材)

今春3月19日のときわ動物園グランドオープンに向け、建築端材をリユースし、第一部では看板・標識を、第二部では休憩ベンチを親子で一緒に作ります。予定のもの完成後、余材を使って参加記念品も製作します。

定員:2部制 先着各12組
(対象:宇部市内在住の小学生親子)
参加費は無料です。
応募締め切りは2月8日(月)12:00迄です。
但し、定員に達し次第、受付を終了します。
問い合わせ:うべ環境コミュニティー
(まちなか環境学習館 0836-39-8110)

第18回 環境サロン

「COP21 後の原子力発電の 位置づけについて」 浅田宏之さん(元山口県産業技術センター所長)

と き : 2月18日 (木) 18:00~
と ころ : まちなか環境学習館
参加費 : 200円 (100エコハ進呈)

昨年12月12日パリで地球温暖化防止に関するCOP21が終了し、これに先立って日本が国連に提出した約束草案では、2030年までに2013年のGWG排出量を26%削減するとなりました。またこれとは別に電力の電源構成比として再エネ22-24、原子力22-20、石炭26%などが示されています。原子力発電をどう考えればいいのか考えましょう。

まちなかエコ市場

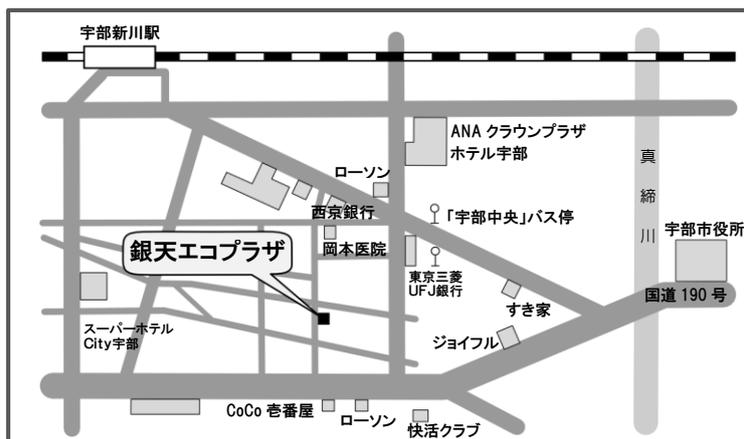
3月26日(日) 10:00~15:00

さまざまな音楽のステージ。新鮮野菜や花の苗などの軽トラ市。スイーツや手作り品、子育てグッズリユースコーナーも大人気。環境関連の展示やエコ教室もありますよ。

まちなか銀天おそうじ隊募集!

「まちなか銀天おそうじ隊」は、月に一度、まちなか環境学習館周辺や銀天街アーケードなどを掃除しています。集まってくださった方々と楽しく「まち」をちょっときれいにしませんか?
2月28日(日) 15時から。
まちなか環境学習館前に集合です。

参加者には、
環境地域通貨
「エコハ」
2枚進呈!



宇部市まちなか環境学習館 銀天エコプラザ

〒755-0045 山口県宇部市中央町二丁目11番21号

交通手段 JR宇部線:「宇部新川駅」徒歩7分

宇部市営バス:「宇部中央バス停」徒歩3分

駐車場 無し (近隣の有料駐車場等をご利用ください)

TEL/FAX 0836-39-8110 E-mail info@ubekuru.com

開館時間 9時~21時

休館日 毎週火曜日、年末年始(12月29日~1月3日)



・写真は活動の一例です。

H23年宇部市は市制施行90周年記念事業の一環として、次世代を担う人材を発掘・育成するとともに市民力の向上を目的に「宇部志立市民大学」環境、健康、文化の3学部を創設しました。

H24年、第1期の環境学部卒業生にて、OB会を立ち上げ、今年で5年目を迎えています。

宇部志立市民大学環境学部OB会は、現在登録人数49名にて、環境先進都市にふさわしい、まちづくりのための環境整備に寄与する事、会員の環境に関する知見の啓発の為の学習会、親睦を深めるための行事等を定期的で開催しています。

「学習会」は、平成27年度は浮田先生に講師をお願いし、「環境倫理」「有機廃棄物の循環」「東南アジア奮闘記」等の講話にて身近な環境問題にたいしての知見を深める事が出来ました。H28年2月は「ふるさと元気懇談会」で久保田市長との懇談で学ばせていただきます。



彫刻清掃ボランティア



海外研修員との交流
宇部環境国際協力協会お手伝い

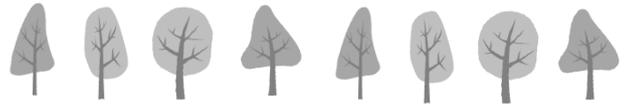


子供服・絵本・リユースフェア運営参加

H27年の年間行事として、年2回（春分の日、秋分の日）の彫刻清掃に参加、納涼会、忘年会or新年会、宇部IECA海外研修員と交流、「宇部市民の環境まちづくり活動」について研修員へ説明、子供服・絵本リユースフェア運営参加、環境サロンに参加等を行いました。

H28年は、多くの会員の皆様と親睦を深め、宇部市の環境整備に貢献できる、OB会になっていければいいと思っています。 宜しく お願い致します。

環境学部OB会事務局



〈環境歳時記〉

2月16日
水俣病原因物質解明(1963年)

有機水銀中毒により世界最大の被害を出した水俣病、本環境歳時記でも何度か取り上げましたが今回はその原因物質であるメチル水銀の解明について記載します。

水俣病が公式に確認されたのは1956年5月1日、チッソ水俣工場附属病院の細川一院長が水俣保健所に「原因不明の脳疾患児の多発」と報告したことが始まりで、その後調査が進むにつれて多くの同様の症状を示す患者が主に海岸地域に居ることが判り、大きな問題となった。

そして8月24日には熊本大学に「医学部水俣奇病研究班」が発足し、状況把握と原因解明がスタートした。11月3日の熊本大学研究班第一回研究報告会では水俣湾産魚介類による重金属中毒と、工場排水に注目し、マンガンによる中毒説が出された、しかしこれも確たる物証は得られなかった。次に1957年4月には原因物質としてセレンが考えられたが症状が水俣病と一致せず否定された。また、1958年5月には工場排水や水俣湾内泥土中に多量に検出されたタリウムが原因と考えられたが、これも症状が水俣病とそぐわない点が

あるということで否定された。

そんな暗中模索を続ける「医学部水俣奇病研究班」に一筋の有力な情報がもたらされた。それは熊本を訪れたイギリスの神経学者マッカルパイン博士が患者の症状を診察、1940年イギリスのハンターとラッセルが報告した農薬工場で発生した有機水銀中毒に似ていると指摘した。この情報で一気に有機水銀有力説が湧いてきた。そして研究報告会でも水俣病患者の症状がこのハンターとラッセルにより報告された有機水銀中毒例のみに完全に一致するとの報告がなされた。その後、水俣湾内での水銀の調査、水俣病患者や不知火海沿岸住民の毛髪調査が実施され、大量の水銀が毛髪から検出された。とりわけ患者やその家族からは著しく大量の水銀が検出された。

そして1959年7月にこの情報が朝日新聞にスクープされ、世論が騒然となった。

それに対して中央からは東京工業大学の清浦博士の水俣湾の海水を調査し、水俣病の原因は工業廃水とは考えられないとの論文や日本化学工業会の大島理事の旧日本軍が廃棄した爆薬説、そして東邦大学の戸田博士は「腐った魚が原因」とする論文の公表など反論が出た。

当事者のチッソもこれらの説に基づいて水銀説に反論を繰り返した。しかし裏では

水俣病正式に確認される前の1951年、チッソの技術部の研究員塩出忠次氏の研究報告でアルデヒド製造工程中に有機水銀化合物が生成されることを報告していた。また附属病院の細川一院長の手で猫を使った実験で工場廃液を含んだ餌を食べた猫が水俣病の症状を示すことも1959年10月には確認されていた。そして1960年末にはチッソの技術者がアルデヒド製造廃液からメチル水銀の結晶を取り出すことに成功していた。

これらすべてを隠ぺいして、チッソ水俣工場は反論を繰り返していた。そして熊本大学への資料提供も拒否していた。

そんな八方塞の中、たまたま工場から採取したスラッジの小片が大学に保管されていることが判り、これを分析した結果、メチル水銀化合物の存在が証明された。そして1963年2月16日発表され、水俣病の原因物質がメチル水銀化合物であることが確定された。しかし工場の操業は止められることなく、チッソ五井工場へ製造移管される1968年まで操業を行い、広く不知火海に廃水をまき散らし、多くの水俣病患者を発生させた。

(館長 西村 誠)

宇部市環境学習ポータルサイト「うべっくる」

宇部市のいろいろな環境学習拠点の紹介、環境関連のイベントのお知らせなど、随時更新しています。「銀天エコプラザ」の詳しい紹介もあります。

facebook や Twitter へもこちらからアクセスできます。



うべっくる

検索

<http://www.ubekuru.com> [kuru.com](http://www.kuru.com)